



No.36

UT University Forests News

科学の森ニュース

December 10, 2006

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

森林教室 世界に一つの『樹木図鑑』を作ろう

田無試験地

8月27日（日）、「田無の森の探検隊ミッション5：世界に一つの『樹木図鑑』を作ろう」と題した森林教室を開催しました。小学校1～6年生の親子21組、総勢44名が田無を訪れました。午前中は隊長（職員）のもと試験地内を探検したくさんの樹木について学び、午後から樹木図鑑を作成しました。樹木の葉や実、樹皮の模様を写し取った『木拓』を集めて作った樹木図鑑は世界に一つ、きっと夏休みの思い出に残ったことでしょう。これを機に森林・自然に触れることの少ない都市域の皆様自然への認識を深めていただけたなら幸いです。



樹皮の模様を紙に写し取る『木拓』を作っています

「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF形式）は東京大学科学の森教育研究センター（演習林）のホームページからダウンロードすることができます。（<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>）

**埼玉県立大滝元気プラザとの共催事業
「夏休み親子でつくる一研究」**

秩父演習林

今年度2回目の大滝元気プラザとの共催事業が8月17日(木)に行われました。県内各地で広報された本事業には、21組79名という大勢の方が参加されました。午前中は秩父演習林の入川で水生昆虫の採集です。1時間程でしたが、真剣に水生昆虫を探す子や水遊びをする子、それぞれに楽しそうです。その後は大滝元気プラザの研修室に移動して採集した水生昆虫の種類を調べました。すべての昆虫の名前は分からなかったのですが、それぞれの形態と生息環境との関係を観察できました。

普段はあまり目にしない上流域の水生昆虫を通して、森林や川の恵みを感じて頂けたことでしょう。



どんな昆虫がいるかな～

本の紹介

科学の森たんけん 新シリーズ刊行!

秩父演習林

シリーズ⑥「秩父演習林のキノコ類」

秩父演習林で観察できるキノコ類を見やすい写真とわかりやすい説明で紹介します

シリーズ⑦「森の身体測定」

森林の木の測り方や森林の構造の調べ方についてイラストを交えてやさしく解説します

1冊300円 詳しくは秩父演習林まで
Tel 0494-22-0272 Fax 0494-23-9620

**お魚がいたよ!!
公開講座「水辺の生き物を探そう」**

愛知演習林

8月20日(日)に公開講座「水辺の生き物を探そう」が開催されました。定員を大幅に上回る応募があり、急遽定員を増やして35名の皆さんに参加していただきました。当日は快晴、川の水の冷たさが心地よく感じられました。

午前中は水生生物についての説明と採り方、注意点などのお話があり、昼食後に川に出かけました。タモ網でガサガサとすくって採った生き物は白いバットに空けて観察します。川の中にはトビケラなどの昆虫類のほか、サワガニ、ハゼの仲間のカワヨシノボリ、巻貝もいました。採ってきた生き物たちを見せ合いながら、名前をおさらいしました。もちろん観察した後は川に戻してあげました。虫に興味のある子どもが多く、終了後も居残り補習をしていました。良い思い出となったことでしょう。



何が採れたかな?

東京大学愛知演習林・ブックレット①

**森林認証・地域材認証と
森林管理・木材利用**

～愛知演習林ワークショップの記録～

愛知演習林

1,000円(送料込み1,200円)
A5判 110頁

詳しくは愛知演習林まで
Tel 0561-82-2371
Fax 0561-85-2838



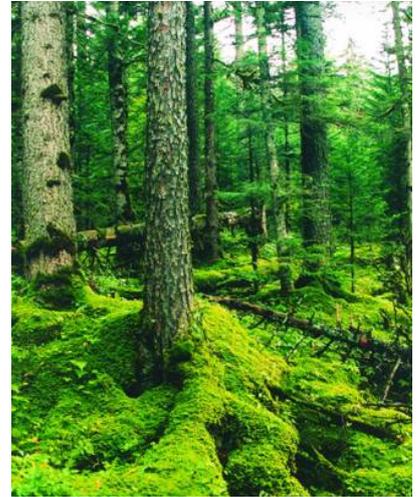
クローズアップ 中国吉林省の森林と人々との関わり 研究部 劉 盛

吉林省は中国の東北部に位置し、面積は19万km²です。2005年現在、森林率は43%、立木蓄積量は8.6億m³で全国第6位を占めており、中国で最も森林資源の集中している地域の一つです。

吉林省の森林と人々の関係は二つの段階を経て今日に至っています。

第1段階 木材生産を中心とした、単純な利用段階

この段階では、国有林職員とその家族にとって、木材生産収入が主要な経済源でした。1949年から2001年の53年間、全国木材総生産量の11%をも占める2.4億m³の木材を生産しました。2000年現在、国有林職員とその家族は250万人に上ります。この段階では、彼らに森林管理の裁量権が付されることはありませんでした。木材生産に加え、多くの農民は里山林に入って山菜や薪を採集して生活していました。それゆえに、森林資源と自然環境の破壊は深刻となりました。



広葉樹とチョウセンゴヨウの原生林

第2段階 天然林保護とそれに伴う多角経営段階

1999年からは「天然林保護」、「退耕還林*1」などの森林回復および保護措置を目標とすることになりました。この段階から人々は森林資源の公益機能および森林環境の保全の重要性を認識し、採取的な利用は終焉に向かいます。

環境保全の意識の向上に伴う木材生産の大幅な減少、生活エネルギー資源の石炭、天然ガスへの転換などを図った結果、森林資源および自然環境はかなり回復しました。国有林職員とその家族の収入は、必然的に木材生産収入から森林資源を対象とする多角経営収入が主となりつつあります。多角経営とは、農作物、薬草などの栽培、魚・林蛙*2などの養殖、山菜や松の実として知られるチョウセンゴヨウの種子など特用林産物の採取・加工のほか、鉱山物の採取、飲食、サービス業などの第三次産業も含みます。この段階では国有林区内の土地において、自由な裁量で林蛙の養殖などの多角経営を始めることが出来るなど、森林管理の裁量権が国有林職員とその家族に付与されていることが特徴です。こうした裁量権の付与とともに、生産・販売の自由も与えられ、多角経営の安定に寄与しています。

「以人为本，天人合一」（人間の要望を基本に、自然と人間が一つになる）、これが吉林省の森林と人間社会が目指す最大の目標です。

*1 25度以上の傾斜地での耕作を禁止し、林地ないし草地への転換すること。

*2 中国東北部の森林に生息しているカエルの仲間。食用や漢方薬の原料となる。

演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください、各演習林にお問い合わせ下さい。

9月

9, 23日 青野の森自然ガイド養成講座(樹芸)
16, 19日 自由見学日(大血川地区)(秩父)
30日~10月1日 こども自然塾(北海道)

10月

7日 公開講座「森林調査入門～森の身体測定～」(秩父)
17日 鴨川市立大山小学校校外学習(千葉)
17日 自由見学日(栃本地区)(秩父)
18日 愛知朝鮮第七初級学校 課外授業(愛知)
20日 天津小学校 緑の教室(千葉)
21日 青野の森自然ガイド養成講座(樹芸)
30日~11月1日 技術職員等試験研究・研修会議(北海道)

11月

4日 公開講座「秩父演習林の歴史」(秩父)
5日 大麓山旧登山道の再開通(北海道)
11, 23日 青野の森自然ガイド養成講座(樹芸)
23日 秋の見学会(愛知)

23, 25, 26日

26日

秋の一般公開(千葉)
公開講座
「クマの異常出没はなぜおこるのか?」(田無)

12月

2, 3日

5日

9日

9日

10日

秋の一般公開(千葉)
稲杵小学校 森林教室(樹芸)
青野の森自然ガイド養成講座(樹芸)
野鳥の巣箱をかけよう 巣箱作り(千葉)
東大演習林影森祭(秩父)

2月

2日

未定

公開講座「海岸の森を歩こう、植えよう」(愛知)
演習林を歩こう(千葉)

3月

2日

4月

7日

公開講座「春を待つ樹木たち」(愛知)

野鳥の巣箱をかけよう 観察会(千葉)

メタセコイア

スギ科 メタセコイア属

学名： *Metasequoia glyptostroboides* Hu et Cheng

樹芸研究所

メタセコイアは、高さ 35m にもなる落葉高木で、2～3 月に開花、10 月ごろに 2cm 位の球果がつき、11 月ごろ美しく紅葉します。今でこそ世界中に植えられていますが、かつては化石でしか発見されておらず、100 万年前に絶滅したと思われていました。1943 年に中国揚子江の奥地で発見された時は生きた化石として話題になりました。現在各地で見られるものは、中国の母樹から増やしたものです。

樹芸研究所では、面積 0.16ha、47 年生の林分があり、成長調査を行っています。開通したばかりの新林道から珍しいメタセコイア林がご覧になれます。



名所名物案内

演習林発祥の地 浅間山原生林 せんげんやま げんせいりん

千葉演習林 鈴木 誠



明治 25 年 (1892) 12 月、本多静六助教授*1 が当時の学生を率いて房総半島を横断途中、当地浅間山に着きました。浅間山一帯並びに付近の林相は、房総地域特有の原生状態がよく保たれていたことから、林学の実習・研究に最も適しているとし、ここに演習林を設置しようと考えました。本多助教授は帰校後直ちに政府に交渉し、浅間山とそこを取り囲む清澄寺周辺の国有林 336ha を東京大学に譲り受け附属演習林としました。本多助

教授の造林日誌には「之大学演習林の嚆矢 (こうし) *2 であって実に我が国に於ける学校演習林又は学校附属林の濫觴 (らんしょう) *3 である。」と記されています。

清澄寺周辺の森林は元和 2 年 (1615) 徳川家康の寄進によって清澄寺の寺領となり、その後国有林となったものでした。現在の千葉演習林の面積は創立後に編入された地区も合わせて 2,170ha となっています。

浅間山はモミ・ツガの大木に加え寺領林時代からのスギの高齢木も混ざって上層をなし、中層はシイ・カシ類、下層にサカキ・ヒサカキ等の常緑広葉樹が占めて荘厳な雰囲気をかもし出しています。浅間山が原生状態に保たれていた一つの要因は、この地方に「浅間山の木を切ると致命傷を負う。さらに枝葉を燃やすと家が焼ける。」という迷信があったため、古来より鉈 (なた) ・斧 (おの) を入れられなかったことによるといいます。

*1 日本の林学、造林学・造園学の基礎を築き、日本最初の林学博士となった人物。日比谷公園はじめ多くの公園の設計や、国立公園の創設に尽力した。
*2, *3 物事の始まり、起源

科学の森ニュース (UT University Forests News)

第 36 号 (No.36)

発行日 平成 18 年 12 月 10 日

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

発行人 下村彰男

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

編集人 山本博一

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori@uf.a.u-tokyo.ac.jp